

ドキュメント

女帝・竹久みちの野望と金脈

三越

大下英治



ドキュメント三越

女帝・竹久みちの
野望と金脈

大下英治

大下 英 治
おろした えい じ

1944年 広島県で生まれる
広島大学文学部仏文科卒
大宅マスコミ塾第7期生

1969年より週刊誌などのフリーライターとして現在に至る
著 書 『小説電通』(三一書房), 『教祖を壁とせ』(学陽書
房), 『帝王の倒れる日』・『ビジネスマン三国志』
(以上スポニチ出版)

ドキュメント 三 越

Printed in Japan

1983年 1月31日 第1版第1刷発行

1983年 2月5日 第1版第2刷発行

著 者 大 下 英 治
©1983年

発 行 者 菊 地 喜 三 次

印 刷 所 暁印刷株式会社

製 本 所 東京美術紙工

発行所 株式会社 三 一 書 房

東京都千代田区神田駿河台2の9

電 話 03 (291) 3 1 3 1 ~ 5 番

振 替 東 京 9 - 8 4 1 6 0 番

郵便番号 1 0 1

落丁・乱丁本はおとりかえいたします。

ドキュメント 三越／目次

1	女帝・竹久みちの野望と金脈	5
2	岡田茂最後の全インタビュー	51
3	三越事件の発端	101
	A 岡田専務をめぐるとかくの噂	
	B 竹久みち邸の深夜の密室パーティ	
4	九月二十二日「三越岡田社長解任」取締役会	115
5	香港カトリック	133
6	宮崎喜三郎の転落	143
7	岡田解任前夜へ対談 針木・大下	153
8	岡田を撃った全怪文書類	177
付	岡田・竹久年表	195
	あとがき	201

ドキュメント

三越／女帝・竹久みちの野望と金脈

1

女帝・竹久みちの野望と金脈

日本橋三越本店から、東京駅方向へ二、三分歩いたところに、白壁十階建ての三越大手町別館、日本ビルディングがある。新日鉄ビルの隣りで、地の利がいためか、静岡銀行をはじめ三越関連の会社以外の企業も入っている。ビルの地下は、地下鉄大手町駅に通じており、地下の飲食街は昼食時ともなれば、たくさんのビジネスマンで賑わう。活気のある明るい清潔なビルだ。

ところが、このビルに、全体の雰囲気こそぐわな、陰気な一角がある。三越の外商本部や建装本部、情報販売部、配送部などに通じる入口だ。この入口には、ガードマンがいて、昼間だというのに、あたりは薄暗い。一般の者は、これから先には入れないが、この薄暗い廊下に入っていくと、奥まった左手に、関連会社『室町美術』がある。

そして右手に、何の標示もない、広い部屋がある。この部屋が存在を知る者は、三越社員の中でも、ほんのわずかである。彼らは、この部屋のことを、ひそかに「女帝の部屋」と呼んでいる。

部屋に呼びつけられたことのある何人かの社員の証

言によれば、事前面接（後述）の日、部屋に入ると、女帝を取り囲むようにして、女帝側近グループの三越社員が、厳しい雰囲気で坐っている。営業統括室商品部長（前香港三越総支配人）の藤村明苗、商品本部次長兼情報販売本部長の榎本勝善、商品本部長付部長の天野治郎、商品本部婦人子供用品課長の幸前誠、香港三越副支配人（貿易担当）の関根良夫、本店貴金属部課長（前ローマ三越副支配人）の淀縄博司……。

彼らに取り囲まれるようにして、紳士・婦人用品、輸入特選雑貨等の仕入の部長や課長、主任が「今度の海外の買付けでは、フランスに行つてメンズ・パレンシアガのネクタイを何千万円、イタリアでは、バルトロメイのワニ皮ハンドバッグを何億円買う予定です」とスケジュールを報告する。

彼らの買付けてくるこれらの商品は、すべて女帝に関わりを持ち、結果として女帝の懐が潤う仕組みになっている。

機嫌を損じると即左遷

「われわれ社員は、彼女のことを、彼女の前では、センセイと呼んでいます。万が一センセイの機嫌を損じ

ると、即左遷ですからね。面接ではセンセイの氣に入るように、つい多めの数字を提出してしまう。輸入してもとても捌けもしないアクセサリーも、あとのことなど考えないでどんどん輸入するようにいうんです。

センセイは、眼を細めて喜びます。それでも欲が深いのか、こちらが多めのつもりなのに、『まだまだ意欲が足りないようね』とからんでくる。すると、そばから側近グループが『もっと増やすように』とはっぱをかける。それから実際にフランス、イタリア、イギリス、ドイツ、香港と、全世界に買付けに行くわけですが、予定額より少なく買ってこようものなら、センセイが怒り狂う。例によって岡田社長にいつけ、仙台あたりの支店に飛ばされかねません。したがって、また予定額を超えた買付けをしてしまう。あとで在庫の山になることを考えると、空恐ろしくなってしまう（直輸入関係の社員）

つまりは、いまや三越の利益のための買付けではなく、女帝のご機嫌とりのために直輸入商品の買付けに海外に飛んでいるのが現状だというのだ。

ちなみに、秘かに入手した社内資料、今年二月女帝に提出された「昭和五十七年三月バイヤースケジュール案」によると、

仕入本部紳士用品部のAバイヤー、十一億五千五百万円。

婦人子供用品部のKバイヤー、二億七千万円。
婦人子供用品部のAバイヤー、三十億円。

雑貨部のSバイヤー、三億七千万円。

ブティック部のHバイヤー、九億二千万円。

ブティック部のTバイヤー、二億八千万円。

総合計五十九億九千六百万円の仕入予定になっている。売値に換算すると、ざっと百二十億円である。

その結果どうなったか。これも秘かに入手した社内資料、昭和五十七年七月二日現在の「直輸入商品入荷表」によると、十三億二千八百四十七万四千円の商品が三月から六月まで入荷済、七、九月入荷予定が五十一億百六十五万五千円で、九月までには、六十四億三千九百九千円の商品が入る予定になっている。

当初の予定では五十九億九千六百万円であったのに、いざ実際に買付けに行くと、四億三千四百十二万九千円増えている。

所得番付で山口百恵より上

女帝の名を、竹久みちという。五十二歳。三越に君臨しているからといって、高島屋の石原一子常務のように、別に三越の女重役というわけではない。貿易会社『オリエント交易』、『アクセサリーたけひさ』、『竹久みちアクセサリー学院』などのオーナーである。形の上では、六千社もある三越の取引業者の一人にすぎない。

よりくわしくいうと、五十七年五月に発表された「昭和五十六年度高額所得番付」で、一億一千八十三万円所得をあげ、「その他」部門で十五位にいたのが、彼女である。華道家元の池坊専永が、一億九百五十万円で十六位、あの山口百恵が、一億五百七十二万円で十八位。彼らをも凌ぐ所得をあげている。

なぜ竹久みちがそれほど巨額な所得をあげることができたのかはあとで述べるとして、納入業者の一人にすぎない彼女が、三越社員を自分の社の部下下でもあるように顎で使い、わが物顔にふるまっていられるのも、ひとえに彼女が三越・岡田茂社長と特別の関係にあるからだ。また、彼女がこのようにふるまうこと

を、岡田茂社長が黙認しているからにはほかならない。竹久みちの力が、三越社内においていかに絶大なものかを、身近な例から伝えよう。

三越の店内を覗くと、衣料・雑貨、貴金属などの有名ブランドの商品が、華やかにブティック展開されている。これらのブランド商品のうち、じつに七割近くが、彼女の経営する『オリエント交易』『アクセサリーたけひさ』を代理店として三越に入ってくるか、彼女が口銭を取って入れているかのいずれかである。

「それも、『オリエント交易』を通すとき一五%の口銭、さらに『アクセサリーたけひさ』を通して一〇%、計二五%近い口銭を彼女が取る」(元『オリエント交易』貿易部長鈴木保美)

海外三越経由の物でもメーカーと契約を結び、宣伝協力費という名目で総扱い高の五%以上のバックマージンを取っている。

竹久みち関連のブランド商品は、確認できただけでも次の数にのぼる(実際には、これより多いとみていい)。

「カトリヌ」(香港の婦人軽衣料)

「ロエベ」(スペインのカバン、ハンドバック等を除くセーター、ウェア)

「セルツテイ」(フランスの婦人衣料)

「バルトロメイ」(イタリアのハンドバック、スカーフ、ネクタイ等)

「バレンシアガ」(紳士、婦人衣料及び雑貨類)

「ゴールドスミス」(イギリス三大デザイナーの貴金屬)

「マツピン&ウエツプ」(イギリスの銀製品)

「ショーム」(フランスの貴金屬)

「タータン」(イギリスの婦人衣料)

「ポール・ルイ・オリエ」(フランスの婦人衣料)

「高級毛皮」(香港、フランス、ドイツ)

「タン・グ・チェリ」(フランスの婦人衣料)

かつては「ファブリス」(フランスの貴金屬)、「アルニス」(スペインの衣料雑貨)もそうだったし、その他、最近コーナー扱いをはじめた「セザール・ピッチーニ」(イタリアの衣料雑貨)も、彼女の息がかかっている。あらためてその力に驚かされる。

竹久みちと関わりのないブランドは、「ダンヒル」「シャネル」「セリーヌ」など強力なブランドだけである。これらのブランドは、すでに国内に強力な代理店が存在しており、さすがに女帝の力をもってしても、自分の支配下には置けないらしい。

ただし、その腹いせか三越日本橋本店一階の「セリーヌ」の売場など、いつの間にか片隅に迫いやられ、スペースも半分以下にされてしまっている。

この他に、ブティック展開はされていないが、各階で販売されている東南アジアからの百万円もするワニ皮のハンドバッグや、ドイツ製の羽毛布団、六階の特選売場に置いてあるヨーロッパ、東南アジアからの各種アクセサリー等、竹久みちがらみの商品は枚挙にいとまがない。なおつけ加えるならば、これらの商品を売っている女子店員たちの着ている制服も、竹久みちがデザインし、香港の彼女の縫製工場でつくったこともある。いまや、三越では、「輸入商品で女帝の息のかからないものを見つける方がむづかしい」状況なのである。

もはや、犯罪的行為

三越の直輸入担当者たちが竹久みちの機嫌を取るために競い合うようにして買付け、店内でブティック展開されているそれらの商品は、驚くほど売れていないのである。

やはりこれも入手した社内資料、昭和五十七年二月

現在の「直輸入ブティック商品ブランド別売上高表」によると、「カトリヌ」をはじめ、「バレンシアガ」など十七のブランド商品の売上高が、五十四億七千七百万円、それに対し、店頭在庫だけでも、百三億円。なんと倍に近い。

その上、売れた商品も実は値引きに次ぐ値引きで、ほとんどが定価では販売されていないという。

いや、もっと恐るべき資料がある。

直輸入商品の中でも、竹久みちが一〇〇％近く関与しているのがアクセサリー商品である。この直輸入アクセサリーと、それ以外の一般アクセサリーの在庫高を比較してみよう。

支店ベテラン部長によると五十六年度（五十六年三月～五十七年二月）の竹久みちのからまない一般アクセサリーの全店の年間売上は約七十九億円。それに対し平均在庫は、九億二千万円。月間売上とほぼ見合う。回転率（年間売上高を延べ在庫数で割った数字）にして八・六回。一般的には、月間売上高と平均在庫高が等しいくらいで年十二回が理想とされている。一般アクセサリーは、その意味では、まずまずのかたちといえよう。ところが、竹久がらみの直輸入アクセサリーとなる

と、年間売上高七億四千万円に対し、平均在庫高は、十二億円。一般アクセサリーの在庫との比率でいうなら、直輸入商品は八千四百万円程度の在庫でいいはずなのに、なんとケタ外れの十二億円、およそ十四倍である。回転率にして、〇・六回。一年に一回転もしていない計算になる。

片や八・六回転しているのに、竹久みちがらみのアクセサリーが〇・六回転しかしないため、アクセサリー商品全体では、年間売上高八十六億四千万円に対し平均在庫高二十一億二千万円で、回転率は四・〇回。竹久みちがらみのアクセサリーの売上げの悪さと異常な在庫によって、せつかくの他のアクセサリーの回転率が半減している。誰が見ても、竹久みちがらみのアクセサリーが足を引っぱっていることがわかる。

これはまだ表面的な数字にすぎない。この在庫数は、あくまで店頭在庫数にすぎないからだ。竹久がらみの直輸入アクセサリーは、この他に、まだ店頭にならばない正味在庫が、倉庫に原価にして六億四千五百万円、売価にして約十二億円分眠っている。そればかりではない。仕入部商品と称する、店頭に出したものの売れなかったので倉庫に戻している商品が、三億六

千四百万円もある。五十七年六月末現在それらすべてを合わせた竹久がらみのアクセサリー商品は、二十七億六千四百万円にもものぼる。回転率にして、約〇・三回転。「もはや、犯罪的行為だ」と全国の三越アクセサリー担当社員たちは怒っている。

そんなに売れないものをいつまでも倉庫に後生大事に抱えておくことはない、返品すればいいではないかという疑問が当然起る。ところが「そんなことをしたら、女帝の逆鱗にふれ、即クビが飛ぶ」というのだ。

そのため、竹久みちの商品は、すべて買取りになっている。納入した商品が売れようと売れまいとかまわない。どんどん三越に買わせさえすればいいのだ。一品たりとも返品がないのだから要は三越に買わせることだけが問題なのである。まるで「ブラック・ホール」でもあるかのごとく、三越がどんどん売れない商品を吸い込んでいく。こんなボロイ商売は、世の中にあるまい。

泣くのは、三越の社員だけだ。現に、竹久みちがらみで輸入したアクセサリーや「カトリヌ」などの商品在庫が、江東区東雲、塩浜の三越商品センターにゴッソリと眠っている。いや、とても両倉庫では間に合

わなくなつて、浅上倉庫、浅風倉庫まで借りて在庫を収容している。浅風倉庫には、婦人服、紳士服が移されているが、「二十万着近い服がゴッソリ在庫の山になつていて、不気味なかんじ」（三越社員）だという。

それでいて、この九月までには、三月はじめて買付けに行つた竹久がらみの商品がまた倉庫に入つてくる。いや、この九月には、また「女帝面接」があり、新たな商品が買付けられる。

そのせいもあつてか三越の在庫が、このところ異常に増えている。五十六年度末で、七百三十七億円。店頭価格に直すと、一千百五十億円にのぼり、いまや竹久みちこそ、「三百十年の伝統を誇る三越の屋台骨を食い荒す白蟻」という非難が社員の間からも募々と起きている。

これにたいし、岡田社長はいかなる反応を示しているのか。

「岡田社長は、世間の眼をごまかすため、竹久みちがらみの毛皮を中心とする二十数億円もの売れない商品を、子会社の三越縫製へ強引に押しこんでいます。いざれ買い取るからという条件つきで、「返品」処理にしている。ところが、これらの品物は、従来どおり店

頭に並べられ、あるいは倉庫に山と積まれたまま動かず、経理上、いかにも竹久がらみの在庫が減ったように見せるためのものです。なんら本質的解決にはなっていない」(商品本部婦人用品担当社員)

折も折、二人はエーゲ海へ

大荒れが予想された今年(五十七年)五月二十七日の株主総会は平穩に終った。その直後、問題の二人、女帝・竹久みちと岡田茂社長は「華麗なるエーゲ海クルージングとヨーロッパ周遊の旅」に出発、時期が時期だけに心ある社員の颯感をかった。

岡田茂が社長になってから、彼自身の思いつきで五月の株主総会直後、毎年豪華海外ツアーが組まれ、岡田社長もじきじきに参加している。一千人近い参加者の中には、三越の納入業者が強引に参加させられ、しかも、海外でのパーティに必要なモーニングまで三越で買わされるなど、公正取引委員会も「納入業者に対する押し付け販売」として独禁法違反に問うていた、いわくつきのツアーである。

このツアーに岡田社長は、竹久みちを必ず同伴する。その他、三越納入業者の中の竹久みちを取り巻く

“VIPグループ”と呼ばれるメンバーも必ずといっていいほど参加、社員のあいだでは、このツアーを、三越のPR誌「KING & QUEEN」にからめ「クインとキングの豪華ツアー」と呼んでいる。

これまでも、「バリ・ヴェルサイユ宮殿における」日仏芸能交歓と宮苑ソシ・エ・ルミエール」(五十二年)、「マリーアントワネット回想の「ブルトイユ城宮廷園遊会」」(五十三年)、「パリ・ノートルダム大聖堂交響曲の夕」と「コンシエルジュエリー大晩餐会」(五十四年)、「プロア城における中世宮廷音楽と舞踊の夕」(五十五年)、「ババリアの日の王、ルードヴィッヒ二世ゆかりのお城めぐりとヘレムキムゼー城鏡の間における「ワグナー・シュペルト名曲演奏の夕」」(五十六年)などのツアーがあった。

今年も、エーゲ海ブームにことよせて、「華麗なるエーゲ海クルージングとヨーロッパ周遊の旅」が組まれた。参加者は、公取委がうるさくなったせいで、千人を越えた一時のにぎやかさはないが、それでも約六百人が参加した。

ところが、今年、このツアーにわざわざ九十万円を超える金を出して参加した客の一人は実に不愉快な目

にあった。

「竹久みちという女は、いったい三越の何ですか。わたしは『ステラソラリス号』の最上デッキのデラックススイートの船室を予約しておいたのに、ある日、係の社員が『出来れば部屋を替えてもらいたいのですが……』といってきた。何カ月も前から予約していたのにですよ、もちろん断りました。旅行中、ほかの参加者と話して分かったんですが、突然竹久みちという女が、『最上デッキは、すべてわたしのグループで買占める!』と言い出したそうです。これも豪華船で親しくなった三越の社員から聞いたんだが、竹久みちの髪をセットするためだけに三越の美容師を、出張扱いでわざわざ連れていっている。よく考えると、それらの金も、すべてわれわれツアー参加者の金にふくまれていくはずですよ。」

アテネから船旅が終るまで、まるでヤクザ風の警備保障会社の者が二人、いつも岡田社長と竹久のあとについているんです。これも三越の経費でボディガードを備ったようですが、いったい何を恐がっているのかと客の間でたいへん話題になっていました。びっくりしたのは、ある島に着いたとき、フェリーボートの数

に限りがあるので、われわれ客は、大人しく順番を待っていた。すると竹久みちという女が、怒り狂っているんです。『どうして、わたしたちの専用ボートを、用意しないのよ!』、自分だけ、何の特権があると思っているのか、あきれましたね」

女帝の豪邸は推定四億円

竹久みちの金脈を知っていたために、彼女の資産をみておこう。

まず、彼女の現在住んでいる目黒区八雲五の四の十三の、二階建て、地下一階の豪邸。駒沢公園に近い目黒区八雲の住宅街は、古い邸宅が多い。それだけに白亜のモダンな「女帝の館」は、ひときわ人目を引く。

玄関は、ドームに鉄の門。が、なぜか、表札がない。ひときわ目立つ邸宅だけに、よけいに奇異な感じがする。裏手の勝手口に戻って見たが、やはり表札はない。そのかわり、門の横に防犯用のテレビカメラが据えつけられ、玄関を睨んでいる。いや、玄関だけではない。勝手口にも、防犯カメラが据えつけられ、監視を怠らない。

玄関横手のバス通りに面して、間口約五メートルの

大きな車庫がある。シャッターが降りていて奥行きは不明だが、近所の人の話によると、この車庫には、あずき色のジャガーなど何台かの外車が収容されているという。

なお、この豪邸の敷地面積は、二百九十八平方メートル(約九十坪)、価格(推定)にして約二億円。延べ床面積五百九十六平方メートルの建物は、建築当時の建築費およそ二億円で、計四億円。

渋谷区猿楽町に『竹久みちアクセサリー学院』の看板を出した七階建て鉄筋コンクリート造り陸屋根の『竹久ビル』がある。このビルの一階から三階までに、『竹久みちアクセサリー学院』をはじめ、『オリエント交易』『アクセサリーたけひさ』がある、いわば竹久みちの本拠である。四階以上は、マンションとして賃貸している。敷地面積は約二百八十一平方メートル(約八十五坪)で、推定価格は四億円。延べ床面積千十三平方メートルの建物が、建築費一億円。合わせて五億円。

六本木三丁目の表通りから奥まったところにある五階建て鉄筋コンクリート造りのビルも、竹久みちの所有である。かつて彼女が一階に『クレオパトラ』とい

うクラブを経営していたところで、現在も一階はサロンとして残されている。

敷地面積は百五十八平方メートル(約四十八坪)で、推定価格一億円。延べ床面積三百九平方メートル(約九十四坪)の建物は、三千万円。合計一億三千万円。

六本木の俳優座隣りに『みちたけひさ・ブティック』という二階建ての小ぢんまりしたビルがある。一階はレディースアクセサリー、二階はメンズウェアの売場。このビルは、竹久みちの所有ではないが、借地権料は、約二億円と推定される。延べ床面積百平方メートル(約三十坪)の建物の建築費二千五百万円。合計二億二千五百万円。

軽井沢のレイクニュータウン八風の里には、彼女の別荘がある。事業主は、国土開発で、売主は三越。三千平方メートル(約九百九坪)の土地に、二棟建っている。一棟は三階建てで、延べ床面積三百三十平方メートル、建築費にして五千万円。もう一棟は二階建てで、延べ床面積九十九平方メートル、建築費二千万円。土地の価格が四千万円だから、合わせて一億一千万円。

この他に、藤沢市片瀬海岸にもマンションを持って